

風を感じて No. 344

R5. 2月

寒々厳しい毎日です。

皆様いかがお過ごして下さい。



⑥専用の機械で中耕することにより、除草しているところです。完全に除草できる訳ではないので、日々において2~3回行います。雪の後は、くもりの日が多く、しかも低温の日が続きましたので、土がなかなか乾かず、ほとんびり作業できていません。

2月は、麦踏みと中耕の作業を頑張りたいと思います。この厳しい寒さに耐えて生長し続ける麦はとてもたくましく、見ていて元気をもらいます。

朝方は水道管凍結の心配があるほど冷え込む日がありましたが、太陽が顔を出すと光の明るさに季節が進んでいるのを感じます。梅の便りやうぐいの初音、心待ちにしています。

編集 原 誠一、文化
1/31. TEL FAX 0968.26.4339
info@haranoujyo.com

1月末に、日本中が大寒波に見舞われた日。ここ七城町は、うつオホと雪が積もる程度でした。県内でも、場所によれば、積雪と道路凍結によって渋滞が発生しそうです。その後も、低温の日が続きましたので、3~4cmの霜柱を毎日見ることができました。霜柱を踏むと、ザクッザクッという音がして楽しいものです。

昨年のことですが、「孫たちが」たくさん霜柱を踏んで大はしゃぎしていました。その後、泥でくつかベタベタに汚れてしまい、大変だったことを思い出します。



福豆

2月3日は節分です。新しい季節が始まる前の、節目の日。ですから、季節の変わり目である、「立春、立夏、立秋、立冬」の前日のことです。特に立春の節分は、旧暦の正月と近いことや、暮らしの中心である稲作が始まるなどから、特別な日とされ、いつの頃からか、節分」といって、立春の前日を指すようになりました。

正月前に大掃除をするのと同様、新しい福を呼び込むために、悪いものやけがれを払う厄払いの行事や風習が多いのが、節分の特徴です。

「福豆」と呼ばれる、炒った大豆を多く「豆まき」もその一つです。しょうゆやみその原料となるなど、古くから重要な穀物であった大豆には、「靈力」と宿る」と考えられています。

それと手立てで、疫病や害虫などの悪い物(鬼)を追い払ったり、沈めたりしたのが、現在に残る豆まきにつながっています。

又、節分は、年取りの行事でもあります。年齢に1つ加えた数の福豆を食べることで、その年にあやかって、一年の健康と幸せを願います。

昔は、炒った大豆の焦げ具合で、農作物の出来や天候を占うなど、農業との関わりも深かったようです。

節分の縁起物として「福茶」があります。「喜ぶ」の昆布、縁起物で毒消しにもなる梅、手始めしく勧かり豆」…福茶には、一年の健康と幸せを願う気持ちが込められています。

* 福茶 1人分

結び昆布1個(又は昆布1.5cm角1枚)

梅干し1個、炒り豆3粒、お茶適量

湯飲みに、昆布、種を取り除いて梅干し、炒り豆を入れ、熱めの茶を注ぎ、豆が少し浮かげた位置から頂く。

昆布のうま味と、梅の酸味に、炒り豆の香ばしさが加わり、香り良くさっぱりと飲めます。塩分が気になる場合は、小梅や減塩の梅干しを使ったり、お茶の量を増やしたりして調節します。

行事の在り方は変わっても、健康や幸福を願う気持ちは、昔も今も変わらないようです。

